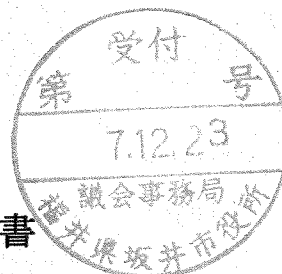


別記様式2-2号

視 察 研 修 等 報 告 書



令和7年12月23日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 創政会

報 告 者 伊藤 聖一

1. 日 時 令和7年11月25日(火)～26日(水) 2日間

2. 視察研修先 ①沼垂テラス商店街
〒950-0075 新潟県新潟市中央区沼垂東3丁目5番
②下仁田町役場
〒370-2601 群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田 682

3. 視察研修内容 ①R7年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」総理大臣賞
受賞団体の空き店舗活用等活動内容について
②スクールバス一般混乗について

4. 参 加 者 伊藤聖一、戸板進、鍋嶋邦広、林豊夏 4名

5. 内容詳細

【1日目】

テーマ：「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で、令和7年度総理大臣賞を受賞した団体「沼垂テラス商店街」の空き店舗活用等活動内容について

昭和30年代、当時堀を埋め立てられ出来た「沼垂市場通り」は、小さな「市」と呼ばれた店舗が立ち並び、賑わっていたが、店主の高齢化、郊外には大型商業施設が開業し、市場通りは、一部の店舗を残し、シャッター通りになっていた。

転機となったのは、2010年地元割烹店二代目店主が、この通りの一角に惣菜店をオープンしたのをきっかけに、空き店舗に若者が立て続け出店し、古い長屋が並ぶ昭和レトロな町並みとして、新しい人の流れが出来てきた。

その後、2014年に、沼垂地域の活性化を目標に「株式会社テラスオフィス」が設立され、市場通りの長屋一帯を購入し、新規出店しやすい仕組みを作ってきた。更に沼垂地域全体の活性化を見据えた「ACTIVE 再生プロジェクト」を本格始動させ、2015年に全28店舗の「沼垂テラス商店街」がグランドオープンした。

今回の視察では、この一連の動きに当初より関わって来られた「株式会社テラスオフィス」の代表に説明と現地案内をしてもらった。

【2日目】

テーマ：スクールバスの一般混乗について

群馬県下仁田町における公共交通サービス（公共ライドシェア＝自家用有償旅客運送とスクールバス一般混乗を組合せたバス事業）を視察。

平成24年、町内4小学校が閉校、下仁田小学校1校になる事を契機に、町内の公共交通の現状を把握し、アンケート調査や路線バスの乗降調査を行ない小学校統合に併せ全面的に再編を行ない、自家用有償旅客運送の町営バスとスクールバスの一般混乗化が開始されている。

6. 所感・感想等

（伊藤聖一）

【1日目】 新潟市 「沼垂テラス商店街」の空き店舗活用等活動内容について

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で、令和7年度総理大臣賞受賞のニュースを見て、実際の活動内容について関心を持ったので視察に出かけました。

昭和の時代に巨大な製紙工場が港近くにあり、企業城下町の様相で大変な賑いのある新潟市を代表する市民の市場や飲食街を形成する地域だったようです。

製紙工場の変革やその他企業の撤退により、いつの間にか市場や飲食店は衰退し空き家・空き地だらけの地域になってしまった事に、古くからの料亭の後継者が大変な危機感を感じて町の再生に取り組んできたようです。

旧沼垂市場の長屋をリノベーションした商店街で、小さなお店が集まった商店街でありニッチな分野のお店が多く集客力に疑問を持ちましたが、朝市などのイベントを年間通してかなりの回数をこなしているそうで、年間20万人が訪れると聞き驚きました。そのような活況から長屋市場には空き店舗はなく、出店希望の問い合わせは多いそうです。行政の支援は公衆トイレの改修だけだとも聞きました。最近では、周辺の空き家のリノベーションも手掛け商店街のエリアも拡大中でした。

市場の跡は店舗付き住居ではないので、リノベーションは容易だった事が成功の一因ではなかったのかと思います。また、市場建物を一括管理するための法人を設立し、イベントの開催やまちづくりに励む組織があるのも成功の秘訣だと思います。

坂井市にも、「丸岡城を国宝にする市民の会」や三國會所などの法人があり、まだまだ活躍する場所があるのではないかと思います。

【2日目】 群馬県下仁田町 スクールバスの一般混乗について

下仁田町では、平成24年度よりスクールバスの一般混乗を実施されています。既に10年以上の実績を積んでおられますが、開始当初は県や国から注意を受けてきたそうです。時代の変化の中今年国土交通省政務官が視察に来られたそうで、今では成功事例として全国から視察に沢山訪れるそうです。

今注目されているのは、人口減少地域において「資源（車両）」と「人材（運転手）」の有効活用の必要性が高まり、スクールバス車両（運転手含む）をフル活用する合理性だと思います。開始当初は一般客を無料にする事で、旅客運送法の適用外とし地域交通会議に諮る必要のないスタイルにしたそうです。

現在は地域交通会議やバス・タクシー業者の理解も得て、緑ナンバーでの運行となっているようです。

国・県の理解も得、交付税や補助金などで不利益になることもなく、人口6万人の町で年間利用者5万千人と、地域になくってはならない公共交通になっていました。

坂井市において、年間利用客数が極めて低い路線で検討すべき事業だと感じました。

（戸板進）

●沼垂テラス商店街の取り組み

この沼垂地区は、元々、北前船の寄港地として、港町として古くから栄え、かつて市場が賑わっていたが、時代とともに市場の機能は衰え、長屋町は空き家・空き店舗が目立つシャッター通りとなってしまった。そんな中、地元の有志や若者が古いものを活かし、新しい価値を吹き込む形で再生に取り組んだ。

市場通り一体のシャッター店舗は、組合が管理していたが、組合員の高齢化により維持管理が低下し、組合規約により組合員以外の出店が制限され、今後の新規出店が困難のことから、会社を設立し、市場を全て買い取り、市場一体を、総合的に統一したコンセプト・デザインのもと開発を行うための再生プロジェクトを立ち上げた。

この再生プロジェクトに関わったきっかけは、

- ・自分たちが生まれ育ったまち、場所

- ・子供のころ当たり前だった、にぎやかで人情あふれるまちの風景を取り戻したい
- ・自分がそうであったように、地元の子どもたちが成長し、大人になったとき、自分の生まれ育ったまちが、自慢できる場所にであってほしい
- ・ふるさとが好きで、ずっと暮らし続けたいまちであってほしい

との思いでプロジェクトを立ち上げたとのことであった。

この長屋は会社で所有されており、テナントとして貸し出しているとのことで、長屋町に入ると昔にタイムスリップしたような不思議な雰囲気にも包まれ、昔のままの屋根でつながれ、ここの店舗が特徴のある内装で立ち並んでいた。

現在は年間20万人が訪れることもあり、周辺の空き家も会社が所有し色々と活用しているようである。

驚くことは、行政が携わったことは、公衆トイレと道路整備だけとのことで、空き店舗、空き家の改修には一切携わっていないとのことであった。

坂井市でも三国湊地区の空き家活用が進んでいるが、空き家の改修など行政が携わることも多い、今一度検証する必要があるのではないかな。

●スクールバス一般混乗について

まず、視察のため下仁田役場に到着したときに、所管課の議員全員が玄関で迎えられたことには非常に驚いた。

下仁田町では、通学用スクールバスとコミュニティバスを運行しており、朝夕に運行するスクールバスに、一般町民も乗車できるスクールバス一般混乗の仕組みを取っている。

この背景には、町内4つの小学校の統合が決定し、スクールバス事業の拡充が必須となった為、混乗化が計画され、車両と付帯設備、人材の効率的運用を図るために路線バスと一体化した見直しの協議検討が行われた。

現在は、6時25分から8時30分に運行されるスクールバス登校時に児童生徒・一般町民が乗車し、8時30分から15時20分間を自家用有償旅客運送としてコミュニティバスとして運行、その後15時20分から18時までをスクールバス下校時に児童生徒・一般町民が乗車できる仕組みとなっている。スクールバス時の一般町民の乗車は無料、コミュニティバス乗車は均一運賃200円となっている。

必要なバスは全て町が保有し、タクシー会社にもバスの維持管理費も含め、委託しているとのことであった。

このほか、交通空白地に在住する、満70歳以上の高齢者、身体障害者手帳の受給者、療育手帳の受給者、精神障害者保健福祉手帳の受給者には、タクシー利用券、1枚800円相当の利用券を町の中心部から近距離地区45枚、中距離地区55枚、遠距離地区65枚を配布している。

この事業を坂井市に置き換えた場合、各小中学校でのスクールバス運行の形態が複雑だと考えるとなかなか難しいのではないだろうか、しかし、1路線だけ運行されているコミュニティバスは、主に朝夕の通学は対象だと聞いているが、この路線は検討する必要があるのではないかな。

(鍋嶋 邦広議員)

【1日目】 新潟市 「沼垂テラス商店街」の空き店舗活用等活動内容について

全国の同様の成功事例を視察した時にも感じた事であるが、やはり、地元住民のこの地を復活させたいという熱い思いと、民間のノウハウ、知見、将来ビジョンと、外からの若者のパワーが上手く化学反応を起こしていると感じた。また、そのパワーによって、新たなオリジナル商品が生まれたり、周辺地域へ広がったりと、進化拡張しているところは、今後の三国湊エリアの再生プロジェクトの参考になった。

【2日目】 群馬県下仁田町 スクールバスの一般混乗について

人口減少・少子高齢化・交通弱者の増加など、坂井市も同じ問題を抱えているが、今回視察した群馬県下仁田町は、さらに深刻で町内4つの小学校が、1校に統合されるといった、大きな変化・再編により、公共交通の大幅な見直しも待ったなしの状況の中で、限られた時間・限られた予算・限られた車両で、どの様に組合せしたら、この直面する課題の解決策が見出されるか検討され、公共ライドシェア＝自家用有償旅客運送とスクールバス一般混乗を組合せたバス事業の再編に至った経緯とその間の行政の取り組み方は大いに参考になった。

(林 豊夏)

【1日目：新潟市「沼垂テラス商店街」】

沼垂テラス商店街の取組は、空き店舗の点在という課題を、民間主導のエリアマネジメントと若い担い手の参加を組み合わせ再生した事例であり、非常に参考になった。特に、2014年に民間会社が長屋全体を取得し、初期投資を抑えて出店できる仕組みを整えた点は、衰退商店街の課題に対して実行可能性が高いアプローチだと感じた。

また、地域住民の「この場所をもう一度盛り上げたい」という強い思いが、出店者の挑戦を後押しし、結果として商店街全体の回遊性や交流人口の増加につながっている構造を現地で確認できた。

坂井市でも、商店街の活性化が重要なテーマとなっている中、老朽化した建物の活用、若い世代の参入、地域住民の主体性と外部人材の協働など、沼垂が実践してきたプロセスは、エリア再生を進める上で多くの示唆を与えるものであった。

【2日目：群馬県下仁田町 スクールバス一般混乗】

下仁田町は、小学校の統合を契機に、交通空白地域や高齢化の進行に対応するため、自家用有償旅客運送（町営バス）とスクールバスの一般混乗を組み合わせた交通体系を構築していた。限られた車両・予算・運行人員の中で、小学校統合と公共交通再編を同時に行った点は、人口減少が進む自治体にとって重要な学びである。

坂井市でも、路線バスの利用者数の減少や、交通弱者の移動手段の確保など、同様の課題を抱えている。特に下仁田町のように、「学校・地域・交通」を一体で捉える再編の視点は、今後の地域公共交通の検討に活かすべき点だと感じた。また、一般混

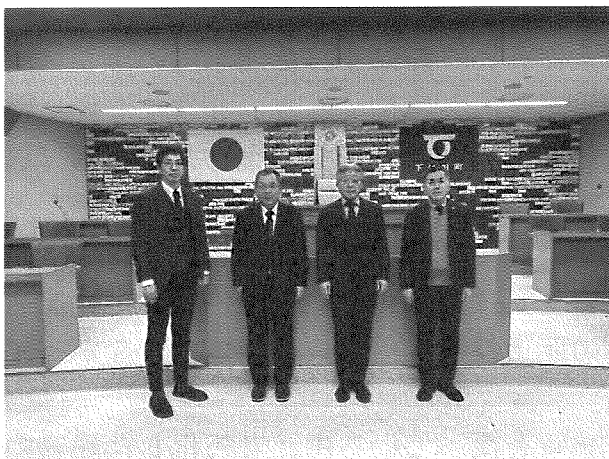
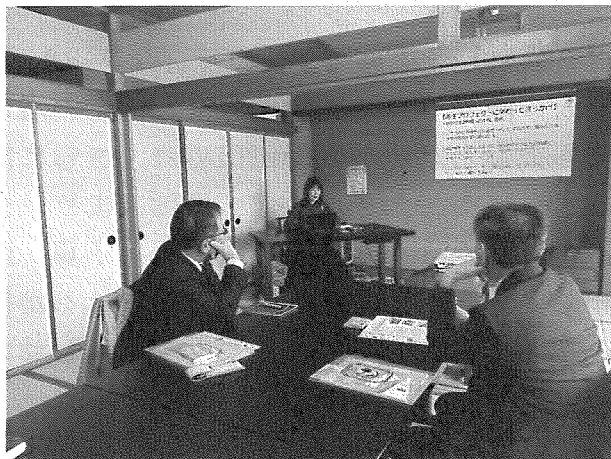
乗化にあたって、保護者や住民への丁寧な説明や、ダイヤ編成の調整、運行ルールの明確化など、導入プロセス全体を行政が責任をもって進めていた点も印象的であった。

総じて、公共交通の維持が困難になる中で、既存資源を統合しながら持続可能な仕組みをつくる行政の姿勢は、坂井市にとって非常に参考となる事例であった。

7. 添付書類



▲沼垂テラス商店街



▲下仁田町役場

